

48、維摩居士像 木庵性瑠賛 雲谷等与画

天和二年（一六八二） 九七・四×三六・五cm 絹本墨画 淡彩 観峰館所蔵

維摩居士とは、大乘仏教の一經典である維摩経の中心人物であり、釈迦の在家の弟子として、釈迦の教えを良く理解していた。維摩居士と文殊菩薩との問答は有名であり、禪の問答にも応用された。維摩居士を描いた絵画は多く存在し、中でも禪宗寺院において人気のある画題である。この作品は、維摩居士の半身に後光を描いた構図で、列祖像のような構図を取っている。

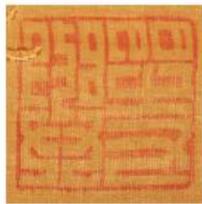


不二門之居士大乗
坐多納敗口黙
如扇捲無人能
覆蓋千戎之秋
黃檗木庵謹
題

【釈文】
不二門之居士大乗
坐多納敗口黙
如扇捲無人能
覆蓋千戎之秋
黃檗木庵謹
題



【雲谷】
2.6 × 1.5cm



【等与】
2.8 × 2.8cm

49、釈迦牟尼仏像 河村若芝 (蘭溪若芝)

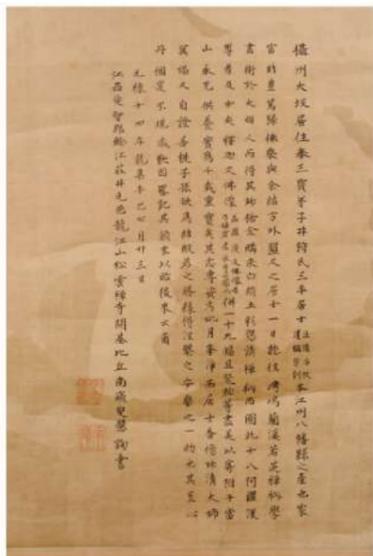
元禄十四年（一七〇二） 一一二・七×五七・四cm 絹本着色 松雲寺所蔵



蘭溪若芝こと河村若芝は、絵を逸然性融に学んだ長崎派の画家であり、東近江・近江八幡地域には、松雲寺、正宗寺、正明寺の三箇寺に所蔵されている。若芝の作品が同地域にもたらされたのは、近江商人の力によるところが大きい。

この作品は、十八羅漢の中央に配されるもので、その裏書は、元禄十四年（一七〇二）、松雲寺開山・南嶺慧詢が書いている。そこには、南嶺慧詢と懇意にあった八幡出身の井狩三平（法諱は淨教、宗訓と称す）が、白絹五彩を購入して若芝に描かせ、十八羅漢と釈迦丈仏像の十九幅を松雲寺に寄進したとある。またその画は、鎌倉建長寺の図を模写したもので、建長寺に所蔵される伝顔輝「十六羅漢図」（室町時代初期作）の特徴を良く伝えている。また、正宗寺所蔵の十八羅漢像もまた、松雲寺本と酷似した作品である。

井狩氏については、永源寺の日鑑にその名前が見られ、また八幡商人の一人である、井狩金十郎の一族の可能性が示唆される。また、松雲寺本が建長寺所蔵の羅漢像を模写していることや、正明寺所蔵本などそれ以前の羅漢像と画風が異なることを踏まえると、若芝工房に属した弟子による代作の可能性が高いだろう。



裏書
(釈文は64頁参照)